

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	子ども理解の言葉かけ、指示の出し方、離席の正当な理由
【学校、学年】	小学校
	【 2 】年
【状況、様子 等】	<p>○前年度の児童Dの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任や支援員が注意すると暴言を吐き、殴ったり、蹴ったり、物を投げたりした。 ・算数、国語の授業に参加せず、好きなアニメの絵を描いたり、離席して黒板に落書きをしたりするなどして授業を妨害することが度々あった。 ・クラスメイトが自分の思いとは違う行動（プリントを配布する際に机が触れられる）があるとイライラし、クラスメイトに手が出ていた。 ・クラスメイトと一緒にいる給食当番、掃除などの活動を苦手としていた。 ・絵を描くのが得意で、県のコンクールで表彰された。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の思い（願い）だと思われることを教師が押し量って尋ねるようにした。【例：「〇〇さんが考えていることは、こういうことかな」】（子ども理解） ・教師が考えていること（願っていること）を本児が理解し、行動できるように、本児にも尋ねるようにした。【例：「先生は、これをしたいのだけど、どうしたらいいだろう」】（学級経営） ・行動や態度を認める声かけを頻繁に行った。できてない行動は、やってほしい行動として、非難ではなく、音声を控え、身振り・指さし等を行った。（支援・手だて） ・起立しての音読や黒板の前に出での発表、配り係など、意図的に（正当な理由で）席を離れる行動を設けた。（支援・手だて） ・指示は具体物を用い、一つの内容を一つの言葉で示し、身振りをつけた。（指示の出し方） ・実物教材を使用し、手に取って操作した。モデルを示すなどの見て分かる工夫をした。（授業のユニバーサルデザイン化） ・書きやすくするためにプリントの大きさをA3サイズに拡大した。（合理的配慮）
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の離席や、授業を妨害することはなくなった。 ・本児をはじめ、児童たちは「これでいい？」などと担任に尋ねる場面が増えた。教師が思いを押し量って声をかけたり、行動を認める言葉かけや実物・身振りをを用いた分かりやすい指示を行ったりする中で、児童たちは不安や迷いを言葉にしやすくなった。こうしたかわりを担任が丁寧に受け止めることで、児童たちは納得し、安心した態度で取り組むようになった。